

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191400423		
法人名	株式会社 心香		
事業所名	グループホーム恵 (ユニット:もみじ)		
所在地	函館市川上町457番地1		
自己評価作成日	平成27年5月8日	評価結果市町村受理日	平成27年8月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400423-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成27年5月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム恵では、ご利用者に、ご自分らしく過ごしていただけることを第一に開設より徐々にではありますが職員一丸となり運営し、ご利用者との関係も構築できてきております。ご利用者の体調が変化していても、その方の生活歴から望むことを汲み取り、少しでも長く住み続けていただくため、ご利用者・職員だけの関係ではなく、家族や知人、または医療等関係機関との連携を強め、共に考えていながら、いろいろと工夫をしていくことが大切であり今後も時間はかかりながらも実践していかなければいけない大切なことだと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、函館市の郊外にある恵山町の市街地より山側に入った丘陵地に立地している。運営者は、長年にわたり地元の社会福祉協議会に勤め、行政と共に福祉全般に携わってきた。その経験から地域の実情を熟知しており、地域のニーズに応じて、2年前に複合型サービス事業所とグループホームを併設して開設し、今回が初めての外部評価である。建物は2階建てで、1階が事務室と複合型サービス事業所で2階がグループホームである。事業所内は明るく清潔感があり、バリアフリーが完備されている。大きな窓からは津軽海峡を見渡すことができ、庭には町の木として名高いつつじの木があり、四季の変化を感じることができる。管理者と職員は地元出身者が多く、利用者一人ひとりに必要な支援を柔軟に提供できるように努め、利用者は尊厳を守られながら、穏やかな暮らしが確保されている。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	1		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が事業所の理念を念頭に入れ理解し、実践につながるよう努力している。	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、利用者の尊厳を主幹とした理念を事業所内に掲示し、共有を図りながら実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域とのつながりは、近隣住民とお会いした際の挨拶や季節になると散歩している利用者には花壇から花をくださったりして交流している。また、地域の町内会の避難施設となっている。	町内会の行事には利用者と職員と一緒に参加し、災害時には事業所が町内会の避難場所となっている。ボランティアの受け入れもあり、近隣の方々と気軽に挨拶を交わし、花をもらうなど触れ合う機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や相談はいつでも受付ており、入居以外の当施設に関係のないことでも相談してもらえる様な対応を心がけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については、委員の参集状況、調整も難しく、スムーズな開催が出来ていない状況であるが、開催時には事業所の現況報告等を行っているが委員からの活発な意見・要望をいただくまでには至っておらず、今後において工夫をするべき課題点である。	運営推進会議は年3回の開催で、町内会、民生委員が参加している。運営状況、相談事例、介護保険改正の動向などが報告され、参加者の意見をもらうようにしている。	全家族に会議開催の案内を出し、行政や地域の方々に声かけをしているが参加者が少ないため、運営推進会議の重要性を説明して開催回数の増加に繋げることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区域担当の包括支援センターの開催する、ケア会議に参列することで、そこに参集される行政職員だけではなく包括支援センター、地域の病院、他事業所、関係機関との情報交換・共有・アドバイス等の連携が構築されている。	管理者は町内の医療、福祉関係、消防署、行政の方々の参加で行われるケア会議に出席し、情報の入手や意見交換をしている。市担当者とは、入居状況の報告や相談で連携を図り、協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は、外からの出入りができないよう施錠しているが、日中は誰でも出入りができるように施錠はしていない。拘束に関しては、日々の介護現場において考えながらケアに取り組んでいる。	契約時に身体拘束と行動制限の禁止について家族に説明し、同意を得ている。職員は事故対策と併せて身体拘束廃止の勉強会を実施し、拘束による弊害を理解しており、自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、会議・研修時において認識共有するために適宜周知し、発生しないよう職員同士でも意識して業務に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、後見人制度を要するご利用者様は現状おられないが、必要時には関係資料を配布し説明をするようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定の際には、説明を行い、ご理解・納得していただけるよう努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会時およびご利用者様のご様子に変化がある際など、ご家族に都度、ご報告・話し合う様に対応している。	家族の訪問時や電話などで意見や要望を引き出す努力や場面作りをしている。表出された課題は前向きに活かし、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催のユニット会議・日々のミーティング等で管理者が職員の意見や提案を集約できる機会を設けている。	管理者は、事業所の業務見直し委員会で職員からの意見や提案を集約し、ユニット会議で検討して反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の業務能力については、把握しているがそれを給与に反映させる仕組みおよび財源がない。今後の業績に応じ、その部分への対応ができると離職への対策になり、やる気や競争力、能力向上につながるかという思いはある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務形態上外部の研修への参加は困難ではあるが、施設内研修や会議・ミーティング等において職員のケアの問題点、改善策等を職員で共有しケア向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者は、近隣の施設・同業者と情報交換など交流する機会はあるが、職員の相互訪問等の活動により職員のネットワークづくりなどは構築できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様ご本人が「どうしたいか」「どうしてほしいか」を言葉かけや表情から読み取れるような関わりを持ち、その方を十分に知るという視点においてケアを行い、少しでも安心して過ごしていただける環境作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは、ご利用者様の状態変化時や面会時などにおいて現況の報告を口頭や電話などで都度報告することで、関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用いただく際には、ご家族等からご利用者様に必要な支援・要望をプランにしサービス提供を実施しており、状況に応じて変更などがある旨はご家族に説明している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護させていただいている気持ちを持ち、必要な時に必要なお手伝いができ、また、お手伝いいただきながら互いに同じ空間で楽しさや喜びを共有できるよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にしかできないこと、見せない表情などがあることもお伝えし、ご面会は出来る限りお越しいただきご利用者と接してもらおう大切さを感じてもらえるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも、どなたが来ても職員で対応しお招き入れできるようにしている	知人、友人の訪問があり、長年疎遠になっていた家族との再会なども支援し実現している。自宅での法要の送迎支援や、通い馴れた店での買い物の同行など、要望には柔軟に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性や個々の身体状況を把握し、時に職員がご利用者様同士の間に入ることで関わりが継続できるよう努めており、居室で過ごすことが多い方へも他利用者様との関わりが持てるよう声かけ等促しをしている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状、契約終了したご利用者様については入院により終了となり、その後、死亡されているというケースであり契約終了後のご本人・ご家族との関係が構築されていることはない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様やご家族の希望に沿うような支援を心がけており、日々のご利用者様の状態・表情・言動からお気持ちを組みとり都度変化のお気持ちなどにも対応するよう心掛けている	職員は日々の関わりの中で、利用者の表情を見逃さず、声かけて意向の把握に努めている。意向が不確かな時には本人の視点に立って職員間で意見を出し合ったり、家族から情報を得たりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報収集することと利用者様との日常的な会話の中から、生活歴を把握し支援につなげている。得られた情報については、ミーティング等において職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の生活歴を踏まえながらも施設の状況と現在の体調等状態に合わせた支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議や日々のミーティングでご利用者様の状況・変化を共有、またケアに関する意見を集約し、実践につなげていくようにしている。	本人、家族の意向を取り入れ、かかりつけ医の意見書を参考にユニット会議を実施し、管理者、担当職員、計画作成者と協議しながら課題の有無を検討し作成している。計画の実施記録は業務日誌に記載して職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を基としながらケア内容については適宜意見を出し合い、気づきや問題点などは共有できるように記録しておくようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様一人ひとりの、その日の状態により対応も変化していくので普段から様々な視点で観察し、適宜支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設行事にボランティアで来てもらうことはあるが、日々の生活の中では現在、どなたかが定期的に来て交流図ってくださるということはない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医または当事業所の協力医療機関の往診により適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医と協力医による定期的な往診があり、専門外治療は家族の代行で職員が同行受診をしている。夜間や緊急時には「救急隊連絡票」に状況を記録し、医療機関との連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1階に併設の看護小規模多機能型事業所の看護師にご利用者の体調により必要時に見てもらい意見をもらうなどの連携をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、主治医、かかりつけ医へのご利用者様の日々の状況等の情報提供は行っている。入院中は職員が面会に行き状態を把握するなど対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に向けた取り組みについては、現状まではケースはないが、今後は現在のご利用者様の状態により対応していくべきものとして職員間での共有を図りながら、また医療等関係機関とも更なる連携体制の構築を図っていくようにする。	ターミナルケアについて全職員で勉強会を実施している。契約時に事業所としての方針を口頭で家族に伝え、重度化に伴う家族の意向も確認している。	事業所では指針の作成を検討しており、職員間での共有を図りながら、チームで体制を整えることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時においては、全職員が対応できるように急変時の連絡体制等は共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の確認や設備の確認については、掲示などもしながら、職員周知している。災害時には、避難施設として地域との関係は持っている。	開設当初、市消防署の主催で地元消防団、地域住民の参加で大規模な訓練を実施している。消防署の提案を受けて、緊急時の避難場所として町内会に協力している。	昨年度は年2回の訓練の実施には至っていないので、日中と夜間を想定した訓練と、地域住民の参加、備蓄物品の準備に取り組むことを期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりの人格は尊重し、個々に合わせて対応を行っている。ご利用者様各々状態や感情も違うので、その方に合わせた言葉かけを心がけている。	職員は利用者のプライバシー保護について勉強会を実施し、マニュアルを整備している。利用者の尊厳を守り、誇りを傷つけない対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のいろいろな場面において、その方のお気持ち、考えを出来る限り把握し、合わせて表情や感情の変化にも注意しながらその方の伝えたいことなどをくみ取れるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	日常的な流れの基本はありながらも、その方の体調や気分に応じて食事の時間や昼寝など、1人ひとりのペースにあった生活を送っていただくような対応もさせていただく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご入浴や起床時には、ご自身の着たい服などあれば選んでいただき、その人が自分らしい装いで過ごしていただけるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の共通メニューはあるが、その方の嗜好を把握し、その方の嫌いなもの苦手なメニューの際には、一品差替えや形態(刻み)変化などをしながら提供している。ユニットごと利用者の状態によるが茶碗付記や洗いなどお手伝いいただくこともある。	栄養士の資格を有する職員の意見を取り入れながら献立を作成している。また、器具、調理台などの消毒は調理師から指導を受け、職員が継続して実施して、衛生管理の徹底を図っている。利用者はおやつ作りや調理の下ごしらえ、後片付けをして、食事を一日の大切な活動の一つにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には三食で標準的な栄養はとれるようになっているが、足りない時や食事摂取量が少ない時には、食事に限らず間食など摂取しやすいものや飲みやすいものなど変化をつけ工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいをし、口腔内の残飯をなくすように心がけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その方の表情や訴えへの迅速な対応だけでなく排泄リズムをできるだけ把握して、近況も考慮しながらできるだけトイレで排泄していただけるよう声かけ・誘導するなど支援している。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンや生活習慣を把握して、声かけや誘導でトイレでの排泄を促し、自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を飲んでいただいたり、運動することで排便を促すよう心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	あらかじめ予定は組んでいるが、その方の入浴予定日の体調を考慮し変更することも当然ある。歌をうたったり、いろいろな話をしたりしながら入浴いただいている。	入浴は週2回を目安にしているが、希望に応じていつでも入浴できる体制を整えており、機械浴も導入している。利用者は浴室で歌を歌うなど、楽しみながらゆっくりと入浴している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆さんには、より良い睡眠をとっていただけるよう健康状態、日々の睡眠時間の把握をし、睡眠が足りない方には日中のソファでの昼寝などをしてもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の情報は、ファイルにてわかるようにしており、誤薬がないようその日の服薬の仕分け職員と服薬介助の職員をできるだけわかるなど気を付けながら行っている。また、薬の変更があった際には、状態の観察をし、都度主治医やかかりつけ医に連絡・相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	下膳や食器拭き、洗濯物の取り込みなどその日の体調・状況に合わせ、また、ご利用者の能力に合わせお手伝いの役割やお誘いを行っている。また、歌や談話を楽しんだり、テレビ鑑賞などホールで他利用者と交流したり一緒に笑って過ごす時間をとるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を考慮し、日々の散歩などで外出する機会は設けるようにしているが、その日その日の希望では対応できていない現状はある。しかし、ご利用者の状態をみている中で、時折買い物やアイスを食べに行くなど出来るときには極力外出することとしている。	利用者は近隣の庭に咲きほこるつつじの花を眺めるなど、楽しみながら散歩している。職員で組織するレクリエーション委員会が企画した函館公園の花見や外食など、多方面への外出は視覚、聴覚、味覚などの五感刺激を得られる機会とし、日々の生活の中で活かされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、金銭管理は管理者が金庫にお預かりをして、買いたいものなどはお伺いし購入してお渡ししている。ご利用者によっては、お預かりしている中からおこづかいとしてお渡ししご自身の好きな飲料物を自由に購入するなどしている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、ご親戚・知人などから来た手紙などはお渡ししている。ご利用者より手紙の発送、電話をかけたい旨のご要望は特段ないが、要望があれば、その方の状態を考慮しながら電話をお貸ししたり、変わって伝言するなど対応することとしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・ホールはご利用者様の居室を囲むように設計されており、テレビや音楽、調理の音またはにおいなどが聞こえ誰かがいるという安心感を感じていただけている。リビングは、職員が季節に応じた手作りの装飾をしていたりして、囲まれた空間を少しでも居心地の良い空間になるよう工夫してくれている。	食堂とホールを中心に居室が囲み、職員が台所に立つ位置からいつでも利用者に目が届くよう、安全に配慮した造りとなっている。壁面には手作りの作品や季節の装飾が飾られ、家具の配置も家庭的な雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の関係性を考慮しつつ、テーブルなどの座席はその方専用のように設定しており、ソファも座る位置や一緒になる人などはなんとなく固定しているように感じる。一方、座りたい場所などがあれば、場面によりその座席の方へも配慮しつつ座りたい箇所にお座りいただくようにもしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は、できるだけご使用いただいていた家具をお持ちいただくようお願いはして、その方の生活の不安を少しでも軽減するようお願いしてはいるが、限られた空間の中では限界もある。反面、写真や小物などその方が過ごしてきた中で手にし目にしてきた細々としたものはできる限りたくさん飾っていただくようにもお話している。	居室は在宅当時の馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋として工夫されており、家族の写真や位牌が置かれ、自宅との環境の差がないよう、安心して過ごせる配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーで歩行時や車椅子移動時などに弊害がないようになっており、トイレ・浴室内外の手すりの位置なども考慮して設置している。		